

PREPARATION OF BATH MENT CONSISTING ESSENTIALLY OF BEEHIVE

Patent number: JP60146820
Publication date: 1985-08-02
Inventor: KURIHARA EIJIYU
Applicant: EIJIYU KURIHARA
Classification:
- international: A61K7/50; A61K35/02; A61K35/64
- european:
Application number: JP19830246542 19831230
Priority number(s):

Abstract of JP60146820

PURPOSE: To obtain a both agent, effective for neuroses such as sheumatism and prosopalgia, etc. and various dermatopathies, by incorporating a dried powder of a beehive with herbal powder, having drug effect on the deromatopathies, and rich in light green dyestuff.

CONSTITUTION: A beehive, e.g. an empty beehive of wasps or scoliids built in soil or a dead tree, is dried to give powder, which is as a main constituent incorporated with a herbal powder, e.g. a leaf of *Sasa albo-marginata* or mugwort, having drug effect on mainly dermatopathies, and rich in light green dyestuff. The addition of the herb reduces the color of hot and cold water darkening in the case of only the powder of the beehive, and an offensive smell is reduced.

Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A) 昭60-146820

⑬ Int.Cl.⁴A 61 K 7/50
35/02
35/64

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)8月2日

6675-4C
7138-4C
7138-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法

⑮ 特 願 昭58-246542

⑯ 出 願 昭58(1983)12月30日

⑰ 発明者 栗原 栄寿 宇都宮市南大通り2丁目2番2号

⑱ 出願人 栗原 栄寿 宇都宮市南大通り2丁目2番2号

⑲ 代理人 弁理士 福田 尚夫

明細書

1. 発明の名称 蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法

2. 特許請求の範囲

1) 蜂の巣を乾燥後粉末とし、その粉末を主成分としてこれに淡緑色素に疊んだ且つ主として皮膚疾患に効果のある桑草の粉末を混加したことを持つとする蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法。

2) 蜂の巣を、土中乃至古木の穴に作られるすゞめ蜂、土蜂等の空巣とした特許請求の範囲第1項記載の蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、蜂の巣を利用し、主としてリューマチ、頭面神経痛等の神経症並びに各種皮膚疾患に効能のある入浴剤を用ようとするものである。

本発明者は、古来からの伝承として、すゞめ蜂等の巣に、リューマチ、頭面神経痛などの治療力があることを聞いているが、今日に至るまで、その試行品を見たことがない。

本発明者はこのことに着想し、ますすゞめ蜂の空巣を採取して末て粉末とし、これを布袋にパックして浴中に浮かべてみた。ところが、巣半強の場合、ぬ水があたかも醤油のようになると風くなり、

また異様な臭気を発散し、さらにアレルギーの心配もあってそのままの使用には抵抗があった。

そこで本発明者は、この空巣を主体としながら、上記色と臭気の穏和並びに皮膚への極端な刺激を避けられ、さらに神経症に止まらず、各種皮膚疾患にも効能を發揮する入浴剤を開発したものである。

以下実施例によって説明すると、まず材料として次の物質を用いる。

番号	料	目
1	すゞめ蜂の空巣	70
2	イネ科・飛葉の葉	10
3	バラ科・ニーカリの葉	10
4	ヤク科・よもぎ	10

1)のすゞめ蜂の空巣は、採取したものを陰干し後粉末にする。2)~4)の各葉草も同じく陰干し後粉末にする。そして1)を主成分としてこれに2), 3), 4)を上記量目比で混合する。

蜂の巣とリューマチ等の神経症との関係については上記伝承の科学的解明に接たなければならぬが、本発明者の推理では、巣の素材が、蜂の体の腹部から分離するミクロの小片、すゞめ蜂、土蜂にあってはさらに多細の糸のしふ、やに幼であること及び空巣には巣糸中に蓄えられたミツ、樹液の残渣物やハチ毒などが含んでいることから、

これらの物質の総合作用として神経痛に著効あるものと思われる。なお園子にヘチ毒がタンパク質系の複雑な物質からなり、少量のヒスタミンを含み、神経痛患者の治療に効果があることはこれまでにも知られているところである。

イネ科の薙草の葉、バラ科のユーカリの葉、キク科のよもぎは、いずれも淡緑色を呈してこれらの粉末の溶解作用により時の空氣の粉末によってとす黒くなる湯水の色を淡色化するとともに各々の方香が混加されて異様な臭気を緩和する。またいすれも薙草として殺菌作用、アレルギー等の皮膚疾患治療力を保持する。

さて実際に入浴剤として使用するには、上記各資料の混合粉末を布袋、ろ紙袋等にパックしたものを浴槽の湯水中へ投する。すると数分の内に湯水が淡い茶赤色に色付き、また強い臭気は消えてほのかな薙草の香りを発散する。

使用量については特に制限なく、多量に使用してもさしつかえない。本発明者の実験では、ぬるま湯で一日数回入浴することが効果的である。

本発明による入浴剤により、既に多くのリューマチや頭面神経痛に悩む者が短時間に治療しており、またじんましん等のアレルギーにも著効のあることが確認された。なお健常人が使いれば、神経症や皮膚病の予防となり、また皮膚面が柔やか

になることも実証された。

特許出願人 栗原栄寿
代理人 弁理士 福田尚夫
印鑑
氏名
印鑑